

2 学校経営の概要

(1) 学校経営方針

①基本的な経営観

学校教育目標を「夢に向かって 心豊かに たくましく生きる子ども ~ふるさと大好き！自分で考え進んで行動 みんなでつくる 楽しい学校～」とし、ふるさとを大切に思い、変化の激しい時代の中で生き抜くための主体性・協働性・創造性を身に付けた子どもの育成を図り、子どもと教師、地域が一体となって、楽しい学校を創り上げていこうとする活気に満ちた学校づくりを目指したい。

②基本方針

ア「安心できる学校（学級）風土づくり」（認め合い、信頼し合える人間関係の構築）

イ「子どもが主語」（子どもの「問い」を大切にした授業づくり、子どもの主体性・協働性・創造性を高める教育活動の推進）

ウ「凡事徹底」（当たり前のことを当たり前に行う。あいさつの励行とルールの遵守）

エ「組織で対応」（「チームたいようくん」で対応できる教師集団）

③現状

〈児童について〉

児童数86名：通常学級6、特別支援学級1（※知的障害：1年生1名、6年生1名 計2名）

子どもたちは概ね素直で明るく、何事にも前向きに取り組むよさをもっている。また、下学年の面倒を進んでみるなど、思いやりの心も育っている。学習状況調査の質問紙では、自己肯定感が高い児童の割合が非常に高い。しかし、粘り強く物事に取り組んだり、考えたりする資質・能力や態度の育成に課題が見られる。

学習面では、横堀小スタンダードの取組により、概ね基本的な学習習慣が身に付き、落ち着いて学習に向かうことができる。また、これまでの取組により、自分の考えをもつ、書くことができるようになってきている。しかし、相手に分かりやすく伝えたり、発信したりする表現力、また、基礎基本の確実な定着に課題が残る。

〈保護者・地域について〉

保護者、地域ともに教育活動に対し非常に協力的であり、本校の教育を推進する上で大きな力となっている。また、地域資源（「星宮遺跡」「遮光土器」「豊かな自然環境」「田んぼ」等）が充実しており、教科横断的な学習の取組等により、ふるさと教育の充実やふるさとを大切に思う子どもの育成を図ることができる環境にある。なお、地区内の園・小・中学校において授業研究会への参加等、日常的な交流が行われ、計画的・組織的な連携を図っている。

学区内の児童生徒数の減少は穏やかながら減少傾向にあるため、地域資源を活用していくとともに、小・小連携や外部講師の活用等、学校外のリソースも活用しながら教育活動の充実を図っていききたい。

④目指す子ども像・学校像・教師像

〈目指す子ども像〉

- ・自分の考えをもち、行動にうつす子ども【考える力】
- ・協働して課題を解決したり、新たな考えをつくり出したりする子ども【関わる力】【表現する力】
- ・心と体を鍛え、目標に向かってやり抜く子ども【やり抜く力】

〈目指す学校像〉

- ・笑顔いっぱいの楽しい学校
- ・学ぶ楽しさを実感できる学校
- ・みんなから愛される学校

〈目指す教師像〉

- ・笑顔がすてきで、明るく前向きな教師
 - ・自分の考えをもち、共に創る教師
 - ・子どもの成長を心から喜び合える教師

⑤目指す学校像にせまる具体的な戦略及び取組等

【学力向上】

- ・問いをつくり出し、自分の考えを表現する主体的な学びの推進
- ・全員参加で協働しながら、学びを深める対話的な学びの推進
- ・一人一人が学びを自覚し、次の学習や生活につなげるための深い学びの推進
- ・「子どもの姿」で実践を評価し、改善につなげる授業改善の取組

【未来に生きる力の育成】

- ・子ども一人一人のよさを認め、伸ばす積極的な生徒指導の推進
- ・「みどりっ子パワー」の設定と子どもの主体性・協働性・創造性を高める特別活動の充実
- ・学年縦割り班による、思いやりの心や自己有用感を育む活動の工夫

【地域連携・貢献・発信】

- ・地域のひと・もの・こと等の活用及び地域との「連携・貢献・発信」に配慮した学習
- ・校種間連携及び、行政も交えた地域連携の計画的・組織的な取組の推進
- ・学校の取組や教育方針の理解を図るための情報発信の工夫

【チームを中核とした学校づくり】

- ・3つの重点を基にした「学力向上チーム」「未来チーム」「地域とつながるチーム」による新たな取組の提案

⑥育てたい資質・能力

